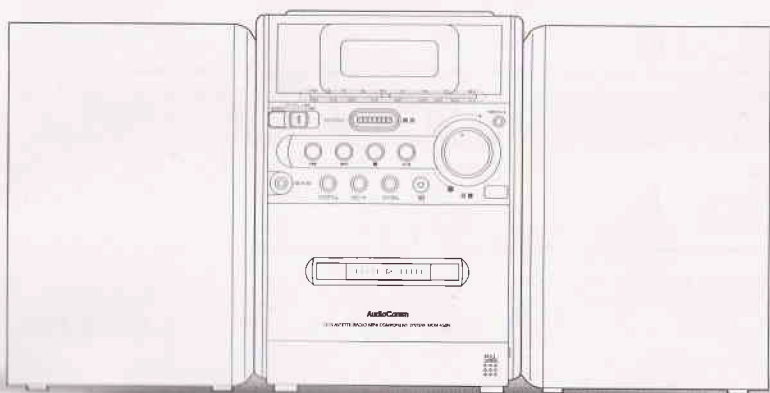


AudioComm®

CD/CASSETTE/RADIO MINI COMPONENT SYSTEM

CD/カセット/ラジオミニコンポ

MCM-450N



取扱説明書

保証書付

このたびは、AudioComm® CD/カセット/ラジオミニコンポをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

警告 電気製品は安全のため注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。“この取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全にお使いください。”なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますよう大切に保管してください。

目次

●安全上のご注意	1~3	●テープを聴くには	12
●電源について	4	●CDからテープに録音するには	13
●スピーカーの接続と FMワイヤーアンテナの設置方法	4	●ラジオからテープに録音するには	14
●ご使用になる前に(CDについて)	5	●外部機器の音楽・音声を聴くには	15
●ご使用になる前に(カセットテープについて)	6	●ヘッドホンを使う時は	16
●各部の名称	7~8	●主な仕様	16
●CDを聴くには	9	●保証書とアフターサービスについて	16
●CDのいろいろな聴き方	10~11	●故障かなと思ったら	17
●ラジオを聴くには	11	●お手入れのしかた	18
		●保証書	裏表紙

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- 弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- 本製品によって生じたデータの消失または破損
- 本製品のために費やした時間および経費
- 本製品を運用した結果もたらされた損害
- 本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果および利益の損失
- 本製品をご使用になって生じたあらゆる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

安全上のご注意

安全上のご注意

電気製品は間違った使い方をすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階に表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

絵表示の使用例



危険

この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。



警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。



△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は感電注意が描かれています。)

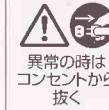


○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。(左図の場合は分解禁止が描かれています。)



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。(左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜く、が描かれています。)

警告



異常の時は
コンセントから
抜く

●万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機のファンクションスイッチを「テープ」にして電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。



分解禁止

●本体を修理、改造しないでください。火災・感電の原因となります。



水が入った
場合は
コンセントから
抜く

●万一、内部に水などが入った場合は、本機のファンクションスイッチを「テープ」にして電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



コードを交換する

●電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止し、修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



接触禁止

●雷が鳴り始めたら、安全のため本機および電源コードには触れないでください。感電の原因となります。



感電に注意



水かけ禁止

●浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しないでください。火災や感電の危険があります。



異物が入った場合は
コンセントから
抜く

●万一、機器の内部に異物が入った場合は、本機のファンクションスイッチを「テープ」にして電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



禁止

●表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



禁止

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本体の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず重いものをのせてしまうことがあります。



禁止

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。



禁止

●この機器を使用できるのは日本国内のみです。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しないでください。火災の原因となります。

注意



禁止

●調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

●電源プラグを抜く時は、コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。



禁止

●ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



禁止

●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。



禁止

●電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



禁止

●窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。



禁止

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

注意(前ページから続く)

 乾電池の電極性に注意	●リモコンに乾電池を挿入する際は、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示通り正しく入れてください。間違えますと乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	 アンテナに注意	●移動させる場合は、アンテナを壁などから外してください。伸ばしたまま持ち運びと引っ掛かったりして、破損やけがの原因になることがあります。
 禁止	●指定以外の乾電池は使用しないでください。乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	 指を挟まれないように注意	●お子様がCDドアやカセット操作ボタンカバー、カセットドアに手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
 禁止	●電磁波を発生させる機器(テレビ、モニター等)に近づけないでください。電磁波により、お互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。	 音量に注意	●ご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。近隣の迷惑になるとともに、耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
 コンセントから抜く	●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。コンセントから抜く時は必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。	 コンセントから抜く	●旅行などで長時間本機をご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜き、リモコンの乾電池も取り外してください。火災・液もれの原因となることがあります。
 コンセントから抜く	●お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。		●電源プラグとコンセントの間にほりかたまると自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
 禁止	●CDプレーヤーのピックアップレンズをのぞき込まないでください。レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。		●使用環境にもよりますが、2年に1回程度、機器内部の掃除をお勧めします。最寄りの販売店にご相談ください。

リモコン用乾電池を安全にお使いいただくために

液もれ、発熱、破裂等の事故を防ぐために、以下のことをお守りください。

 警告	・火中への投入、加熱、分解をしない ・ショートさせない	 注意	・⊕⊖の表示通りに入れる ・指定以外の乾電池を入れない ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない ・使い切った電池はすぐに取り出す ・しばらく使わない時は電池を取り外しておく
---	--	---	--

- 万一液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。
- 万一、もれた液が目に入った時は、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。

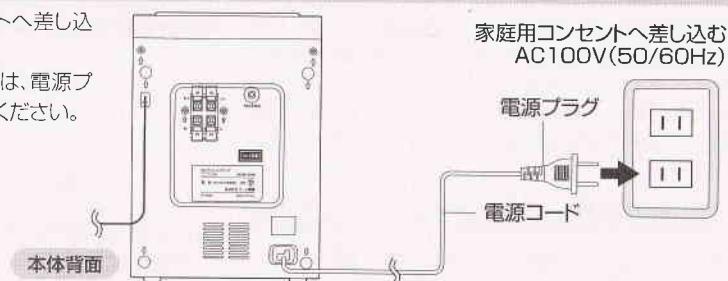
使用済みの乾電池を廃棄する時、自治体の条例などで決まりがある場合にはそれに従って廃棄してください。

電源について

電源プラグを家庭用コンセントに接続します

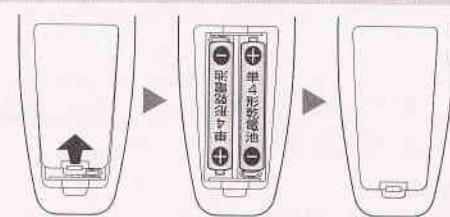
電源プラグを家庭用コンセントへ差し込んでください。

※本機を長時間使用しない時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



CDリモコンの乾電池の入れ方

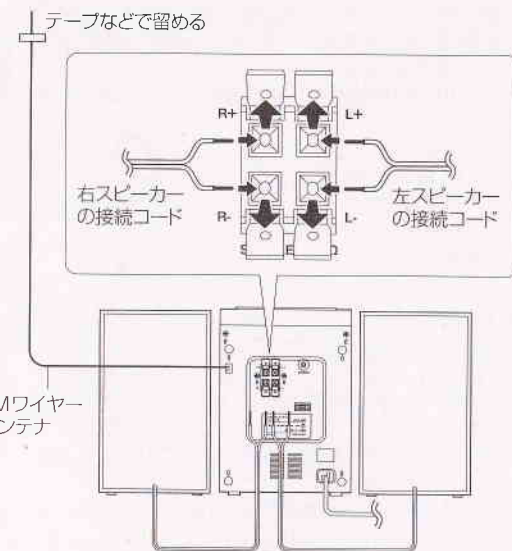
- ①リモコン背面にある乾電池ボックスのカバーのツメを外して開けます。
- ②次に単4形乾電池2本(別売)をボックス内の指示に従い、⊕、⊖の極性に注意して正しく装着します。
- ③乾電池を入れたら、カバーを元通りにしっかりと閉めます。



スピーカーの接続とFMワイヤーアンテナの設置方法

スピーカーの接続方法

- ①本体背面にあるスピーカー接続端子のツメを開けます。
 - ②スピーカーから伸びている接続コードの金属線部分を①で開けた接続穴に入れ、ツメを閉じます。
- ※左右のスピーカーそれぞれに、赤いコードを赤い端子へ、黒いコードを黒い端子に接続してください。
- ※2本のスピーカーはどちらも同じ仕様ですので、任意でスピーカーの左右を決めてください。



FMワイヤーアンテナの設置方法

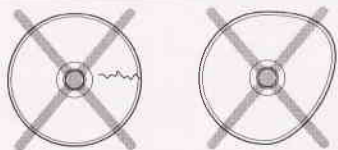
- ①本体背面にあるFMワイヤーアンテナを伸ばし、テープなどを使って壁などに留めます。
 - ②受信状況を確かめながらいちばん良く受信できる位置に調整します。
- ※「ラジオを聴くには」(P.11)参照

ご使用になる前に(CDについて)

結露について

寒いところから急に暖かいところに移動させると、レンズに水滴がついたり、くもったりする結露現象が起こります。この状態で使用すると、正しく動作しないことがあります。このような時はディスクを取り出して数分間放置してください。結露が取り除かれて正常に動作するようになります。

ディスク使用上の注意点



◆再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびやそりのあるディスク、割れたり変形したディスク、テープや接着剤で補修したディスクなどは危険ですから絶対に使わないでください。

◆ディスクに

 のマークが入ったものをご使用ください。

◆現在発売されている「コピーコントロールCD」と呼ばれる著作権保護技術付音楽ディスクは、コンパクトディスク(CD)規格に準拠しない特殊ディスクであり、本製品における再生にあたっては、動作や音質の保証は致しかねます。音楽ディスクパッケージの表示をよくお読みください。

なお「コピーコントロールCD」の詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。



◆本機はCD-R / CD-RWの再生に対応していますが、以下の点をご注意ください。

- ・CD-R / CD-RWディスク、レコーダー、書き込みソフトウェアの種類・状態によっては、再生できなかったり、ノイズや音飛びが生じる場合があります。
- ・ファイナライズ処理がなされていないディスクは再生できません。
- ・本機ではMP3やWMAなど、圧縮されたフォーマットの音楽ディスクの再生はできません。

ディスク取扱上の注意

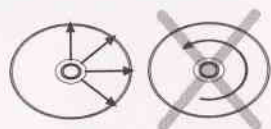
◆再生面に触れないように持ってください。



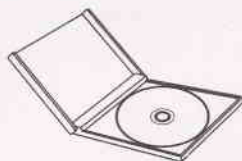
◆再生面はもちろん、レーベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。



◆ディスクに指紋や汚れがついた時は、柔らかい布などで放射状に軽く拭き取ってください。



◆長い時間使用しない時は、ディスクを本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。



◆ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは、使用しないでください。機器の故障の原因となります。

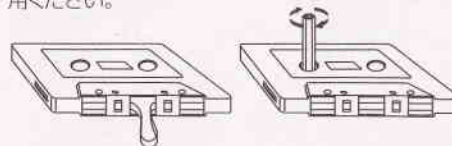


ご使用になる前に(カセットテープについて)

カセットテープの取扱上の注意点

◆テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。

◆テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。



◆カセットテープを入れたままにしたり、再生 / 録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるので、からみや巻きつきの原因となります。テープは必ず取り出して保管してください。

◆テープ動作中の巻戻し・早送り操作は、テープ巻きつきの原因となることがあります。必ず停止させてから巻戻し・早送りの操作を行ってください。

◆テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。

◆エンドレステープは使用できません。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

録音時の注意点

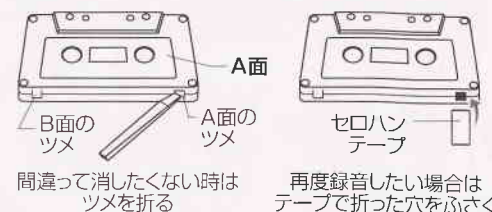
◆ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押したりすると故障する場合もありますのでご注意ください。

◆ノーマルテープ(Type I)をお使いください。ハイポジションテープ(Type II)やメタルテープ(Type IV)には録音できません。また、ノーマルテープについてもC-60(60分テープ)までのテープを使用してください。C-90以上の長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれる等のトラブルの原因になりますので、ご使用はお薦めできません。

◆カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分は録音ができません。録音前にこの部分を送っておきましょう。

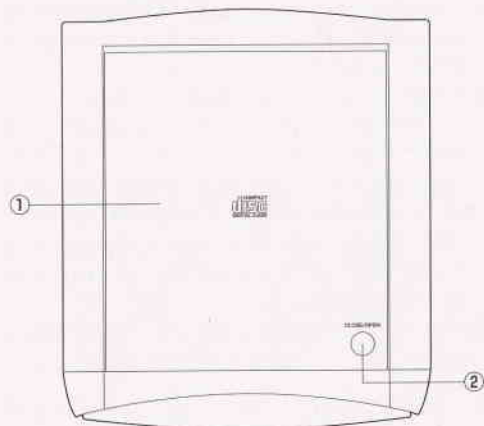
大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合、カセットのうしろ側にある「ツメ」を折っておくと、間違えて大切な録音を消去せずに済みます。再び録音したい場合は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。

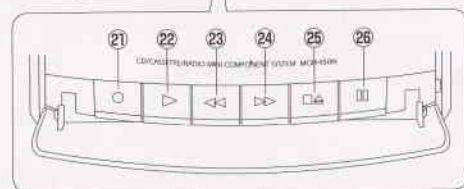
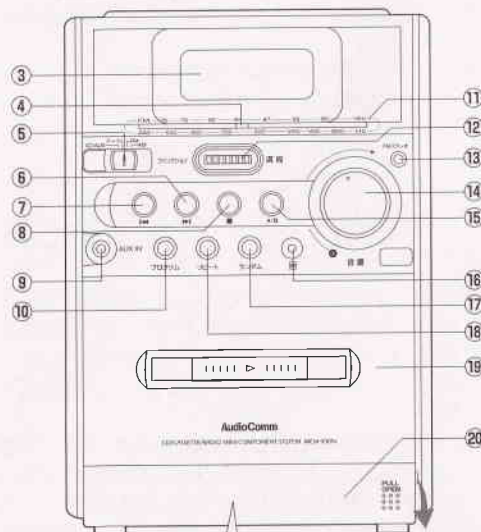


各部の名称

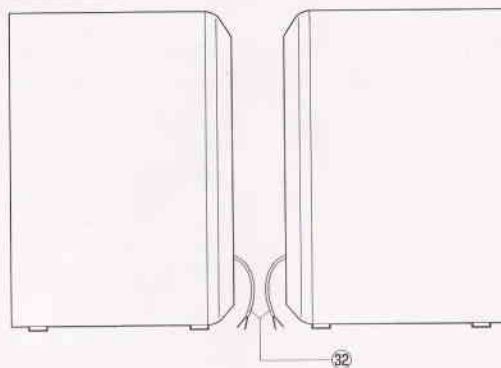
本機／上面



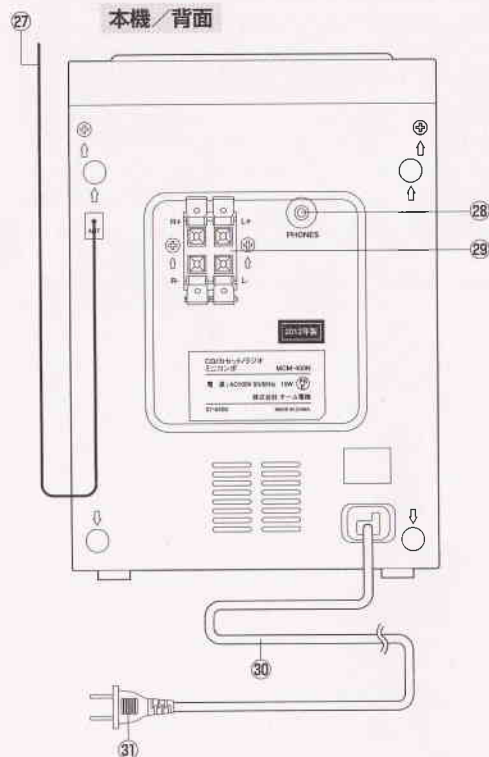
本機／前面



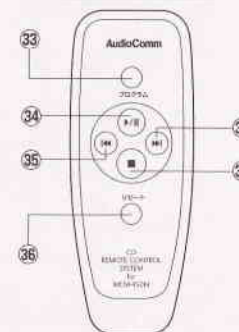
スピーカー



本機／背面



リモコン／前面



リモコン／背面



本機／上面

- ①CDドア
- ②CDドア開閉部

本機／前面

- ③ディスプレイ※
- ④選局指針
- ⑤ファンクションスイッチ
- ⑥スキップボタン(▶▶)***
- ⑦スキップボタン(◀◀)***
- ⑧停止ボタン***
- ⑨AUX IN(外部音声入力)端子
- ⑩プログラムボタン***
- ⑪選局目盛り
- ⑫選局ダイヤル
- ⑬FMステレオランプ
- ⑭音量調整ツマミ
- ⑮再生／一時停止ボタン***
- ⑯リモコン信号受信部
- ⑰ランダムボタン***
- ⑱リピートボタン***
- ⑲カセットドア
- ⑳カセット操作ボタンカバー
- ㉑録音ボタン***
- ㉒再生ボタン***
- ㉓巻戻しボタン***
- ㉔早送りボタン***
- ㉕停止／取り出しボタン***
- ㉖一時停止ボタン***

本機／背面

- ㉗FMワイヤーアンテナ
- ㉘ヘッドホン端子
- ㉙スピーカー接続端子
- ㉚電源コード
- ㉛電源プラグ

スピーカー

- ㉜接続コード

リモコン／前面

- ㉝プログラムボタン***
- ㉞再生／一時停止ボタン***
- ㉟スキップボタン(◀◀)***
- ㊱リピートボタン***
- ㊲スキップボタン(▶▶)***
- ㊳停止ボタン***

リモコン／背面

- ㊴乾電池カバー

※ディスプレイのバックライトはファンクションスイッチがテープ以外の時に点灯しますが、情報が表示されるのはCD選択中のみです。
 *** CDを操作するためのボタン
 *** カセットを操作するためのボタン

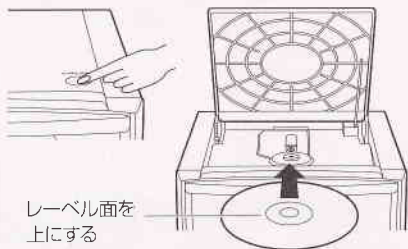
CDを聴くには

CDは本機だけでなくリモコンでも操作できます。

- 1 ファンクションスイッチを「CD/AUX」の位置に合わせる



- 2 CDDア開閉部を押してCDDアを開け、ディスクを正しくセットする



セットした後は、CDDア開閉部を押し下げてCDDアを閉めます。ディスプレイに「-」が点滅し、しばらくすると全曲数が表示されます。



※CDディスプレイに「no」と表示されたり、「-」と表示され続けた場合、ディスクが裏返し／不適切なディスクが入っている／ディスクが入っていない等が考えられます。適切なディスクを正しくセットしてください。

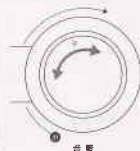
- 3 再生／一時停止ボタンを押す=再生開始



CDディスプレイに再生中の曲番と再生マークが表示されます。

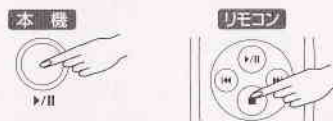
※再生中に再生／一時停止ボタンを押すと、再生が一時的に止まります(曲番号と再生マークが点滅します)。もう一度押すと再び再生が始まります。

- 4 音量調整ツマミを回して音量を調節する



周囲の迷惑にならないよう、音量の上げすぎにご注意ください。

- 5 再生を止めるときは停止ボタンを押す



CDディスプレイは全曲数表示に戻ります。

- 6 終了するとき、ファンクションスイッチを「テープ」に合わせる



スキップボタン(▶/◀)について

再生中に押す、再生中に長押しするといったそれぞれの操作に応じて、機能が異なります。

ボタン(本機およびリモコン)	再生中に押す	再生中に長押しする
	次の曲に移動して再生	聴いている曲が早送りされます。指を離れた時点から再生を再開します。
	曲の頭に戻って再生。2回続けて押すと、ひとつ前の曲に戻って再生します。以降、押す回数によって順次前の曲に戻って再生します。	聴いている曲が早戻しされます。指を離れた時点から再生を再開します。

※再生中に長押しすると、断片的に再生音が流れますので、お好みのところで指を離してください。

CDのいろいろな聴き方

同じ曲を繰り返し聴くには

1曲リピート再生



CD再生中にリピートボタンを1回押すと、聴いている曲を繰り返し再生します。

※ディスプレイに「REPEAT 1」が表示されます。

全曲リピート再生



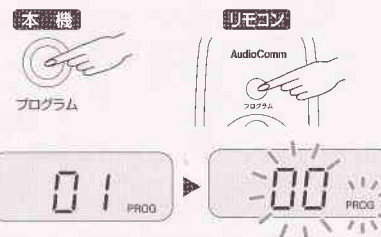
CD再生中にリピートボタンを2回押すと、CD内の全曲を繰り返し再生します。

※ディスプレイに「REPEAT ALL」が表示されます。

リピート再生を解除するには、「REPEAT 1」または「REPEAT ALL」が消えるまで、リピートボタンを1回、または2回押します。停止ボタンを押した場合も解除されます。

プログラム再生(CDの曲を並びかえて聴く) 最大20曲まで登録できます。

- 1 CD停止中にプログラムボタンを押す
ディスプレイに「01」と「PROG」が表示された後、すぐに「00」と「PROG」が点滅します。



- 2 スキップボタン(▶/◀)を数回押して、1曲目に登録したい曲番号を選び、プログラムボタンを押す



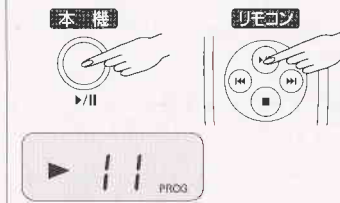
- 3 ステップ2の操作を繰り返して、聴きたい曲を順に登録する

【プログラムを修正するには】

登録操作中にプログラムボタンを2回続けて押すと、01(曲順番号)に続いて曲番号が点滅します。点滅している間にプログラムボタンを数回押して変更したい曲順番号を表示させた後、スキップボタン(▶/◀)で曲番号を選びプログラムボタンを押すと、プログラムを修正できます。※20曲まで登録した後は、1番目の登録に戻り、プログラムボタンを押すたびに曲順番号→曲番号が表示されます。

- 4 再生／一時停止ボタンを押す=プログラム再生開始

登録した順番で再生します。プログラム再生中は、「PROG」が表示されます。



- プログラム登録操作中に何も操作しない時間が約30秒間続くと設定操作が解除されます。また停止ボタンを押すと、設定操作が解除されます。
- プログラム再生中に停止ボタンを押してもプログラム内容は保持されます。再度プログラムボタン、再生／一時停止ボタンを押すとプログラム再生されます。
- CDDアを開けた時や他のファンクションに移行した場合、プログラム内容は解除されます。
- 全曲リピート再生とプログラム再生を併用すると、プログラムした曲を繰り返し聴くことができます。
- ランダム再生との併用はできません。

次ページに続く

CDのいろいろな聴き方(つづき)

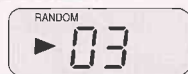
ランダム再生

本機



本機のランダムボタンを押すと、ランダム再生モードになります。

- CD停止中に押した場合は、続いて再生／一時停止ボタンを押してください。ランダム再生が始まります。
- CD再生中に押した場合は、ランダムに選ばれた次の曲に移って再生が始まります。



※ディスプレイに「RANDOM」が表示されます。

- ランダム再生を解除するには、もう一度ランダムボタンを押します(ディスプレイの「RANDOM」が消えます)。停止ボタンを押した場合も解除されます。
- ランダム再生と全曲リピート再生を組み合わせると、CDの全曲を繰り返しランダムに再生します。

ラジオを聴くには

- 1 ファンクションスイッチを「AM」または「FM」の位置に合わせる



- 2 選局ダイヤルを回して聴きたい放送局を選ぶ



- 3 音量調整ツマミを回して音量を調節する



FMステロ放送を良好な状態で受信すると、FMステロランプが点灯します。

周囲の迷惑にならないよう、音量の上げすぎにご注意ください。

- 4 ラジオを終了する時は、ファンクションスイッチを「テープ」に合わせる



重要

- テレビの近くでAMを受信すると、雑音が入ることがあります。また、室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は、本機を離れてご使用ください。
- 移動の際は、FMワイヤーアンテナも壁などの留めた箇所から取り外してください。破損・故障・ケガの原因となることがあります。

よりよく受信するために

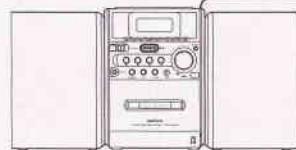
AM放送を聴く時は

アンテナが内蔵されていますので、いちばんよく受信できる方向に本機を向けます。



FM放送を聴く時は

FMワイヤーアンテナの設置場所や伸ばす方向を調整して、いちばんよく受信できるところに留めます。

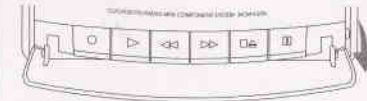


テープを聴くには

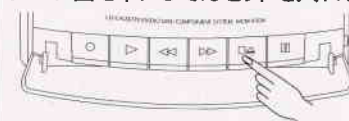
- 1 ファンクションスイッチを「テープ」の位置に合わせる



- 2 カセット操作ボタンカバーを手前に開ける



- 3 停止／取り出しボタンを押してカセットドアを開け、再生面を手前／テープ面を下にしてカセットを入れる



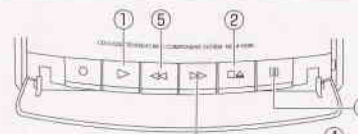
テープが見えるほうを下にし、再生面を手前にして入れます。

正しく入れたらカセットドアを押して閉めます。

- 4 再生ボタンを押す=再生開始

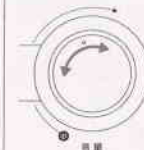


再生中にカセットドアを強引に開いたり、再生ボタンと早送り／巻戻しボタンを同時に押さないでください。テープ破損や故障の原因となることがあります。



- ①再生するには再生ボタンを押します。
- ②再生を止めるには停止／取り出しボタンを押します。
- ③再生を一時停止するには、一時停止ボタンを押します。もう一度押すと再生を再開します。
- ④テープを早送りするには、早送りボタンを押します。
- ⑤テープを巻戻しするには、巻戻しボタンを押します。

- 5 音量調整ツマミを回して音量を調節する



周囲の迷惑にならないよう、音量の上げすぎにご注意ください。

- 6 テープ再生を終了する時は、停止／取り出しボタンを押してテープの再生を止める



終了した後は、必ずカセットを本機から取り出しケースに入れて保管してください。

重要

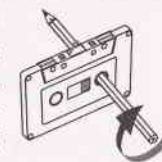
セミアートストップ機能

カセットの再生／録音時に、テープが最後まで行くと自動的に操作ボタンが上がり動作終了します。ただし、早送り／巻戻しでは自動的に動作終了しません。故障の原因となることがありますので、早送り／巻戻し時は必ず停止ボタンで動作を終了させてください。

カセットテープの取扱い

テープのたるみを取る

使用前にテープのたるみを取り除いてください。たるんでいるテープを使うと、テープが機械に巻き込まれて使えなくなることがあります。



矢印の方向に鉛筆を回す

ご使用になれるテープ

本機でお使いになれるテープはノーマルテープです。メタルテープやクロムテープは性能が十分発揮できません。また、エンドレステープはご使用になれません。

90分を超えるテープについて

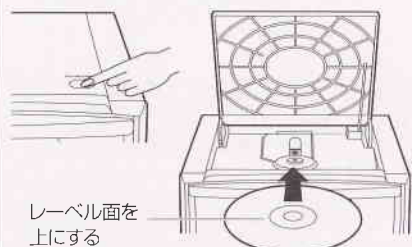
90分を超える長時間テープの使用は避けてください。他のカセットテープに比べて非常に薄いため、のびたり機械に巻き込まれやすくなります。

CDからテープに録音するには

1 ファンクションスイッチを「CD/AUX」の位置に合わせる



2 CDドア開閉部を押してCDドアを開け、ディスクを正しくセットする



セットした後は、CDドア開閉ツマミを押してCDドアを閉めます。ディスプレイに「-」が点滅し、しばらくすると全曲数が表示されます。

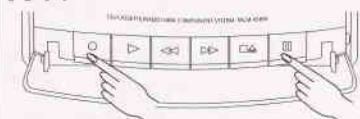
3 停止／取り出しボタンを押してカセットドアを開け、録音面を手前／テープ面を下にしてカセットを入れる

カセットテープの両端のリーダーテープ(透明部分)は録音できません。録音前にこの部分を送っておきましょう。

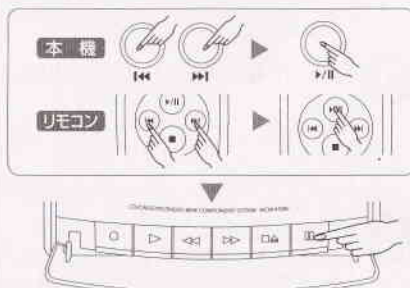


正しく入れたらカセットドアを押して閉めます。

4 カセットの一時停止ボタンを押した後録音ボタンを押す＝録音待機
再生ボタンも同時に下がり、録音待機状態になります。

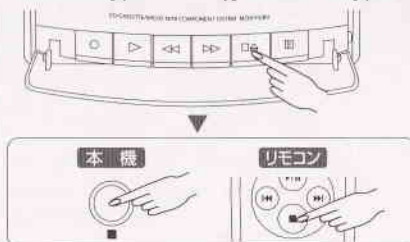


5 録音したい曲をスキップボタン(▶▶/◀◀)で選り、再生／一時停止ボタンを押す。さらにカセットの一時停止ボタンを押して録音待機を解除する＝録音開始



- ・録音中に一時停止ボタンを押すと、録音を一時停止します。もう一度押すと録音を再開します。
- ・再生中の音を聞きながら、録音できます。
- ・録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- ・録音レベルは、自動調節で一定に録音されますので、録音時に音量調整ツマミを操作しても録音には影響がありません。
- ・テープが入っていない状態では、録音ボタンは押せません。
- ・録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。

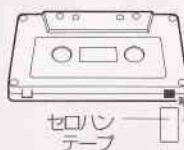
6 録音を終える時はカセットの停止／取り出しボタンを押し、CDの停止ボタンも押す



7 終了する時は、ファンクションスイッチを「テープ」に合わせる



- 誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります(一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください)。
- テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。

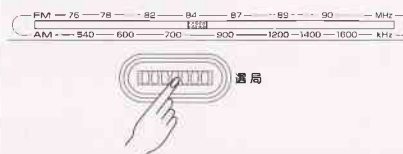


ラジオからテープに録音するには

1 ファンクションスイッチを「AM」または「FM」の位置に合わせる



2 選局ダイヤルを回して聴きたい放送局を選ぶ



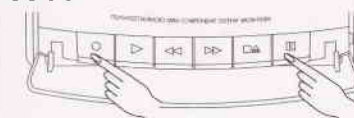
3 停止／取り出しボタンを押してカセットドアを開け、録音面を手前／テープ面を下にしてカセットを入れる

カセットテープの両端のリーダーテープ(透明部分)は録音できません。録音前にこの部分を送っておきましょう。

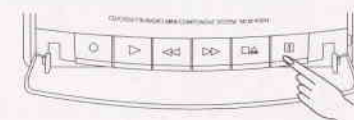


正しく入れたらカセットドアを押して閉めます。

4 カセットの一時停止ボタンを押した後録音ボタンを押す＝録音待機
再生ボタンも同時に下がり、録音待機状態になります。

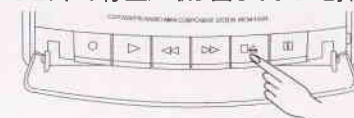


5 ラジオの音声を聴きながら、カセットの一時停止ボタンを押して録音待機を解除する＝録音開始



- ・録音中に一時停止ボタンを押すと、録音を一時停止します。もう一度押すと録音を再開します。
- ・ラジオの音声を聞きながら、録音できます。
- ・録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- ・録音レベルは、自動調節で一定に録音されますので、録音時に音量調整ツマミを操作しても録音には影響がありません。
- ・テープが入っていない状態では、録音ボタンは押せません。
- ・録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。

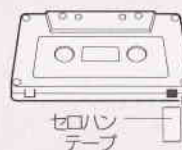
6 録音を終える時はカセットの停止／取り出しボタンを押す



7 終了する時は、ファンクションスイッチを「テープ」に合わせる



- 誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります(一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください)。



- テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。

外部機器の音楽・音声を聴くには

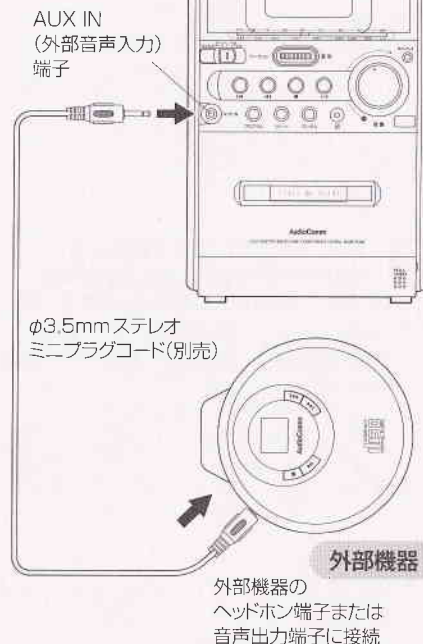
AUX IN(外部音声入力)端子と外部機器をφ3.5mmステレオミニプラグコード(別売)で接続して、ポータブルCDプレーヤーなどデジタルオーディオプレーヤーの音楽・音声を楽しむことができます。

※AUX IN(外部音声入力)端子にφ3.5mmステレオミニプラグコードを接続中はCDの音声は出力されませんのでご注意ください。

- 1 本機のファンクションスイッチが「テープ」の位置にあり、外部機器の電源も切れていることを確かめる



- 2 外部機器のヘッドホン端子または音声出力端子と、本機前面のAUX IN(外部音声入力)端子をφ3.5mmステレオミニプラグコード(別売)で接続する



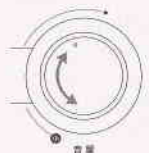
- 3 外部機器の電源を入れ、音量を絞る

- 4 本機のファンクションスイッチを「CD/AUX」の位置に合わせる



- 5 外部機器側で再生等の操作をする

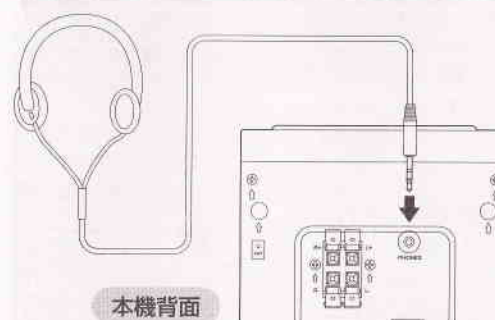
音量操作は本機と外部機器側のどちらでもできますが、本機側で過度に大きくした場合、他のファンクションに移行時、大音量を発することがありますので、十分ご注意ください。



- 6 聴き終わったら、ファンクションスイッチを「テープ」の位置に合わせ、外部機器の電源を切る

コード類の取り外しは、必ず上記の後で行ってください。

ヘッドホンを使う時は



- 別売のステレオヘッドホン(φ3.5mmステレオミニプラグ)を本機背面のヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

主な仕様

電源	AC100V 50/60Hz	CDリモコン: DC3V単4形乾電池2本(別売)
消費電力	15W	
ラジオ受信周波数	AM 530~1605kHz	FM 76.0~90.0MHz
スピーカー出力	2W+2W(最大)	
出力端子	ヘッドホン端子 (φ3.5mmステレオミニジャック)	
入力端子	AUX IN(外部音声入力)端子 (φ3.5mmステレオミニジャック)	
外形寸法	本体: 幅163×高さ227×奥行185mm(突起物含まず)	
	各スピーカー: 幅142×高さ220×奥行137mm(突起物含まず)	
質量	合計 約3.747kg	
付属品	CDリモコン 取扱説明書(保証書付)	

※本製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。また本取扱説明書で使用する図版は、実際の機種と一部外観が異なっている場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容および「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項を確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

故障かなと思ったら

	症 状	チェック項目
共通部	電源が入らない	電源コードが外れて(ゆるんで)いませんか。
	音が出ない	音量が最小になっていませんか。 スピーカーの接続コードは正しく接続されていますか。 ヘッドホン端子にヘッドホンが差し込まれていませんか。 ファンクションは正しく選ばれていますか。
	カセットが入らない	逆向きに入れようとしていませんか。
	テープが走行しない	一時停止ボタンを押していませんか。
カセットデッキ部	テープが機械に巻きつく	ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。 テープがたるんでいませんか。 カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	テープ走行が不安定	テープがたるんでいませんか。
	雑音がひどい、音が震える 音飛びがする	ヘッド部が汚れていませんか。 テープがたるんでいませんか。
	録音ボタンが押せない	カセットが入っていますか。 カセットの誤消去防止用ソメが折れていませんか。 カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	録音できない	ヘッド部が汚れていませんか。
	前の録音が完全に消去されない	消去ヘッドが汚れていませんか。
	テープの音が出ない	ファンクションスイッチが別のファンクションになっていませんか。
CD部	CDの再生が始まらない 音が出ない	CDが裏返しに入っていないですか。 CDがひどく汚れていませんか。 規格外のディスクが入っていないですか。 レンズがひどく汚れていませんか。 CDドアがしっかりと閉まっていますか。 ファンクションスイッチが正しくCD/AUXになっていますか。 AUX(外部音声入力)端子に接続プラグが接続されていませんか。 一時停止状態になっていませんか。 音量が最小になっていませんか。
	CDの音が飛び	結露状態になっていませんか。 レンズがひどく汚れていませんか。 強い振動を与えていませんか。 CDに大きなキズやひどい汚れはありませんか。
ラジオ部	ラジオに雑音が入る	近くで携帯電話を使用していませんか。 テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると雑音が入ることがあります。また、テレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は本機をテレビから離してください。

お手入れのしかた

※お手入れの前には、あらかじめ電源コードを外し、電源が入らないようにしておいてください。

ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ホコリなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると

- 音質が悪い
 - 音が小さい
 - 録音できない
 - 前の音が消えないで残る
- などの症状が出ます。定期的にヘッド部を清掃してください。

ヘッド部の清掃方法

カセットドアを開け、別売のクリーニングキットでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。

なお、内部についたクリーナー液が十分に乾いてからテープをセットしてください。



カセット部内部(下面)

ヘッドの消磁

長い間本機を使っていると、ヘッドが磁化されて高音が聴こえにくくなったり、雑音が増えることがあります。このような時は、ヘッドを市販の消磁器で消磁してください。

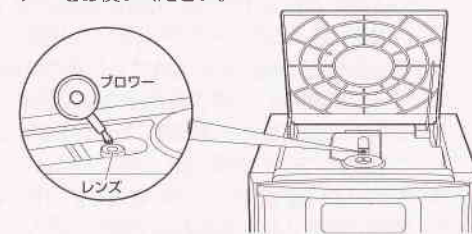
なおカセットタイプの消磁器をお使いになる時は、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

CDプレーヤーのレンズの清掃

レンズの汚れは、音飛びなど正常な再生ができなくなる原因になります。CDドアを開け、下図のようにレンズをクリーニングしてください。

- ホコリなどは市販のクリーニングキットのブロワーを使って、ゴミなどをはき出してください。
- 万一指紋などがついてる時は、市販のレンズクリーナーをお使いください。

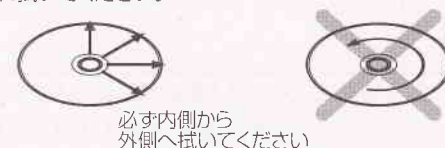


キャビネットの清掃

- キャビネットやパネル操作面が汚れたら、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい時には、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後乾拭きをしてください。
- 電源コードのプラグにホコリがたまると、発火する危険があります。プラグをコンセントから抜いて時々清掃してください。

コンパクトディスクのお手入れ

演奏する前に、演奏面についたホコリやゴミ、指紋などを柔らかい布で拭き取ってください。必ず内側から外側に拭いてください。



- シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーやスプレー静電防止剤は絶対に使用しないでください。
- キャビネットやパネル操作面をシンナーやベンジン、アルコールなどで拭くと、変質したり、塗料がはがれることがありますので避けてください。
- 他の洗剤等をお使いになる時は、その注意書に従ってください。